

# 水の神

匠 瑗 探 訪

185

刈り取りの済んだ干潟  
八万石を眺めながらコロ  
ナ禍の秋祭りを気に掛け  
水神社を訪ねました。

数年前から神社や寺院  
の御朱印がブームと聞い  
ていましたが、この日参  
詣者に出会いました。  
春海の水神社はおよそ



春海の水神社

350年前、つばせのうみ椿湖が干拓  
され新田18カ村の成立に  
伴いまつられた「三柱五  
カ寺」のうちの一社です。  
1670(寛文10)年  
から始まった干拓工事の  
無事をこの三社に祈願し  
たとされ、工事完了後の  
1678(延宝6)年に

幕府から建  
立が許可さ  
れました。

そして新田  
村の総鎮守  
として農民  
の信仰を集  
めました。

椿新田の  
販売は16  
74(延宝  
2)年から  
開始されま  
したが、ま  
だ湿地が多  
く農民の屋  
敷地には適  
さなかった  
ものの幕府

が移住を奨  
励するなど

したため次第に定住が進  
み、工事開始から25年ほ  
どたった1695(元禄  
8)年に検地が行われま  
した。その検地帳に「水  
神宮の境内地五畝十八  
歩」とあり、この記録は  
翌年に成立した春海村の  
いわば土地台帳に当たる  
ものです。

境内に残る1777  
(安永6)年に奉納され  
た手洗石には「水天宮」  
と刻まれ、当時はそう呼  
ばれていたのでしょう。

1840年代の記録に  
は「春海村 椿水天宮」  
「春海村 水神弁財天」  
などもあります。

神社境内には多くの石  
祠いし(石の宮)がまつられ  
ています。「稲荷宮」「子  
安大明神」「天満宮」「大  
杉大明神」、さらには「庚  
申塔」など1750年代  
から春海村全体や個人が  
寄進し造立されました。  
水神社の秋祭りは例年  
とはやや形を変えて行わ  
れるとのことですよ。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

関秘書課広報広聴班

☎73・00800